

4 高齢者が地域で暮らし続けるための施策について

（1）介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか

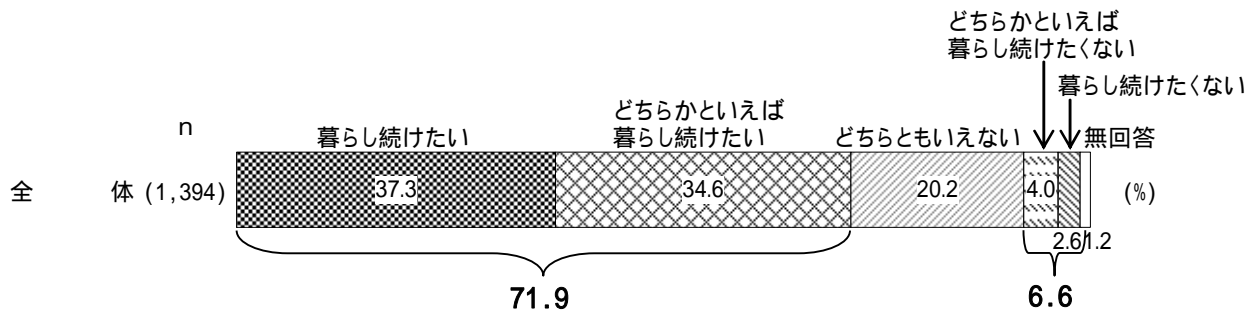
『暮らし続けたい（計）』が7割を超える

県では、高齢者が介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けるために、必要なサービスが提供される「地域包括ケアシステム」の構築促進に取り組んでいます。

地域包括ケアシステムは、日常生活圏域（おおむね中学校の学区）において、在宅医療、訪問介護・看護、介護サービス、見守り・買物支援等の生活支援サービスなどを必要に応じ組み合わせることにより、高齢者が介護が必要になっても、住み慣れた居宅、地域で暮らし続けることを目指すものです。

問15 あなたは、介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいですか。（ は1つ）

<図表4-1> 介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか



介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいと思うか聞いたところ、「暮らし続けたい」(37.3%)と「どちらかといえば暮らし続けたい」(34.6%)を合わせた『暮らし続けたい(計)』(71.9%)が7割を超えて高くなっている。

一方、「どちらかといえば暮らし続けたくない」(4.0%)と「暮らし続けたくない」(2.6%)を合わせた『暮らし続けたくない(計)』(6.6%)は1割未満となっている。(図表4-1)

【地域別】

地域別にみると、『暮らし続けたい(計)』は“安房地域”(82.1%)が8割を超えて高くなっている。

一方、『暮らし続けたくない(計)』は“夷隅地域”(20.0%)が2割、“長生地域”(17.5%)が約2割で高くなっている。(図表4-2)

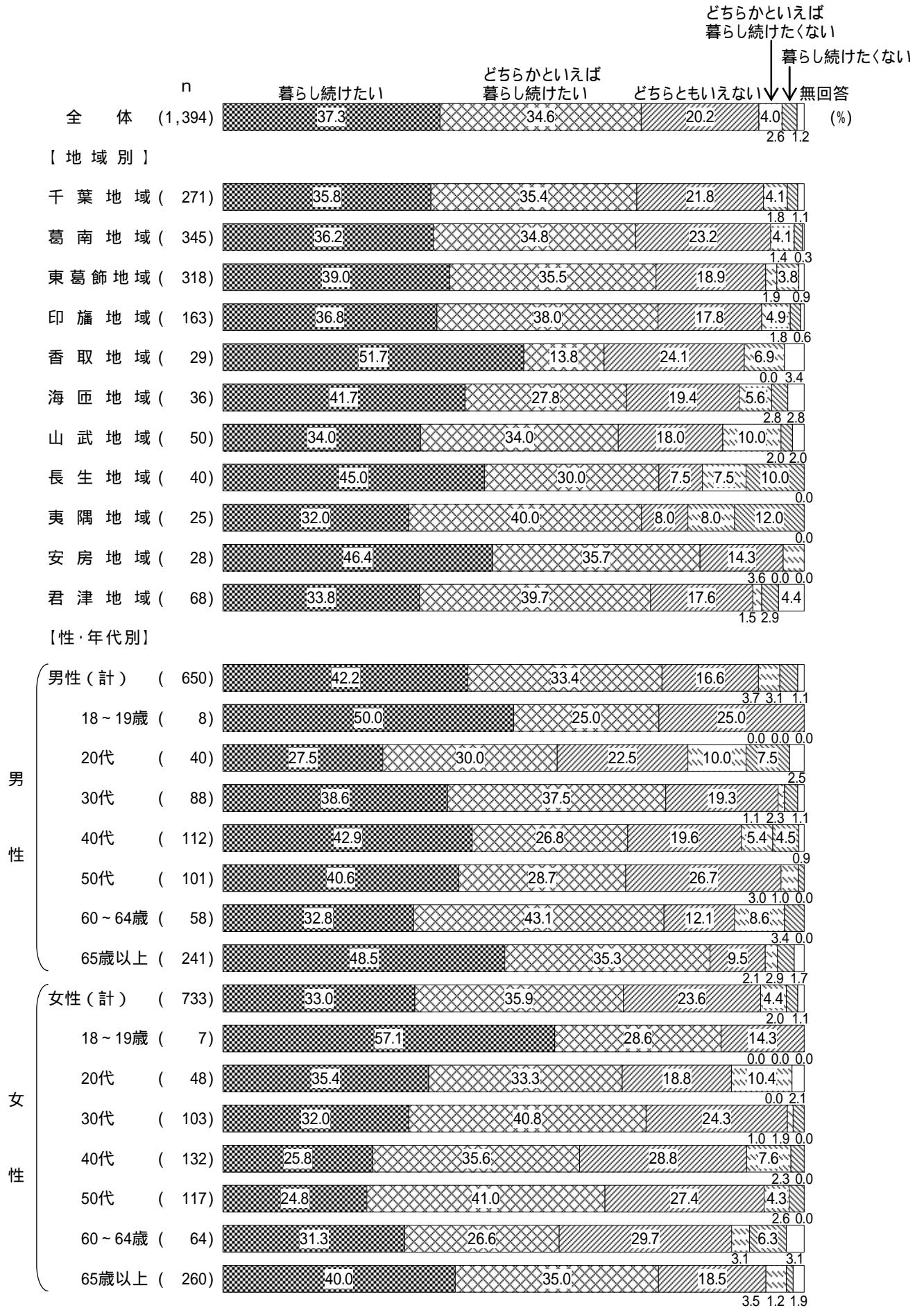
【性・年代別】

性・年代別にみると、『暮らし続けたい(計)』は男性の65歳以上(83.8%)が8割台半ばで高くなっている。

一方、『暮らし続けたくない(計)』は男性の20代(17.5%)が約2割で高くなっている。

(図表4-2)

<図表4 - 2> 介護が必要になっても住み慣れた地域で暮らし続けたいか / 地域別、性・年代別

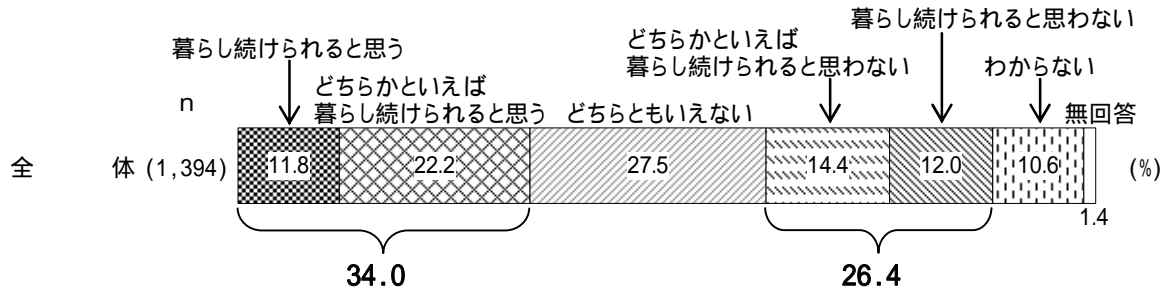


（2）介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか

『暮らし続けられると思う（計）』が3割台半ば

問16 あなたは、介護が必要になっても現在お住まいの自宅や地域で暮らし続けられると思いますか。（は1つ）

<図表4-3> 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか



介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うか聞いたところ、「暮らし続けられると思う」(11.8%)と「どちらかといえば暮らし続けられると思う」(22.2%)を合わせた『暮らし続けられると思う(計)』(34.0%)が3割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえば暮らし続けられずと思う」(14.4%)と「暮らし続けられずと思う」(12.0%)を合わせた『暮らし続けられずと思う(計)』(26.4%)は2割台半ばとなっている。(図表4-3)

【地域別】

地域別にみると、『暮らし続けられると思う(計)』は“安房地域”(50.0%)が5割で高くなっている。

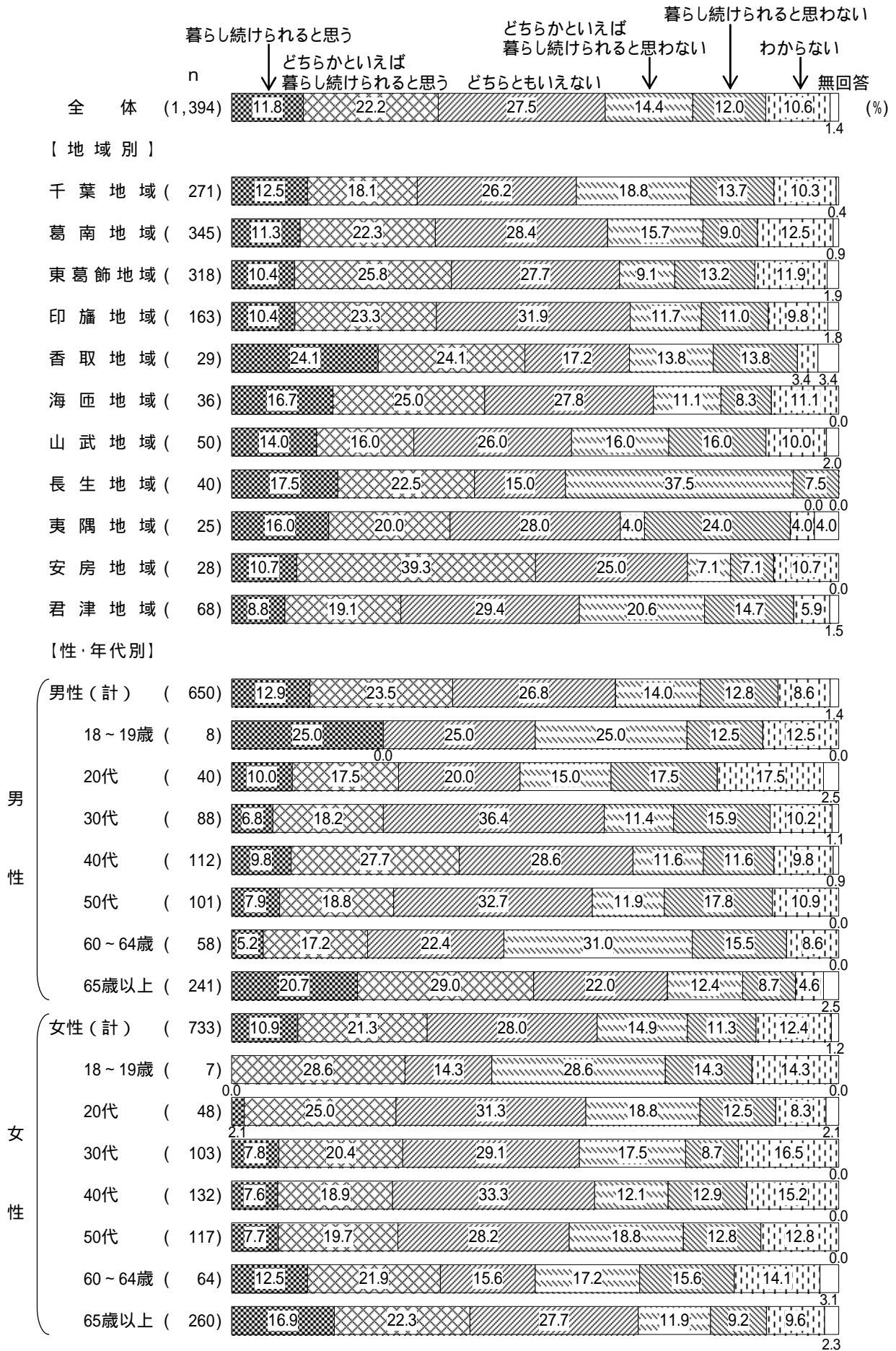
一方、『暮らし続けられずと思う(計)』は“長生地域”(45.0%)が4割台半ばで高くなっている。(図表4-4)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『暮らし続けられると思う(計)』は男性の65歳以上(49.7%)が約5割で高くなっている。

一方、『暮らし続けられずと思う(計)』は男性の60～64歳(46.5%)が4割台半ばで高くなっている。(図表4-4)

<図表4 - 4> 介護が必要になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられるか / 地域別、性・年代別



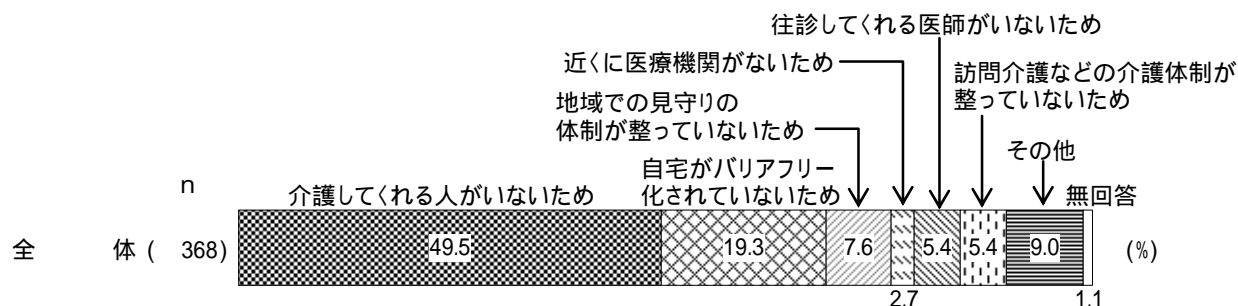
（3）現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由

「介護してくれる人がいないため」が約5割

（問16で「どちらかといえば暮らし続けられると思わない」、「暮らし続けられると思わない」とお答えの方に）

問17 あなたが、暮らし続けられると思わない理由は何ですか。（ は1つ）

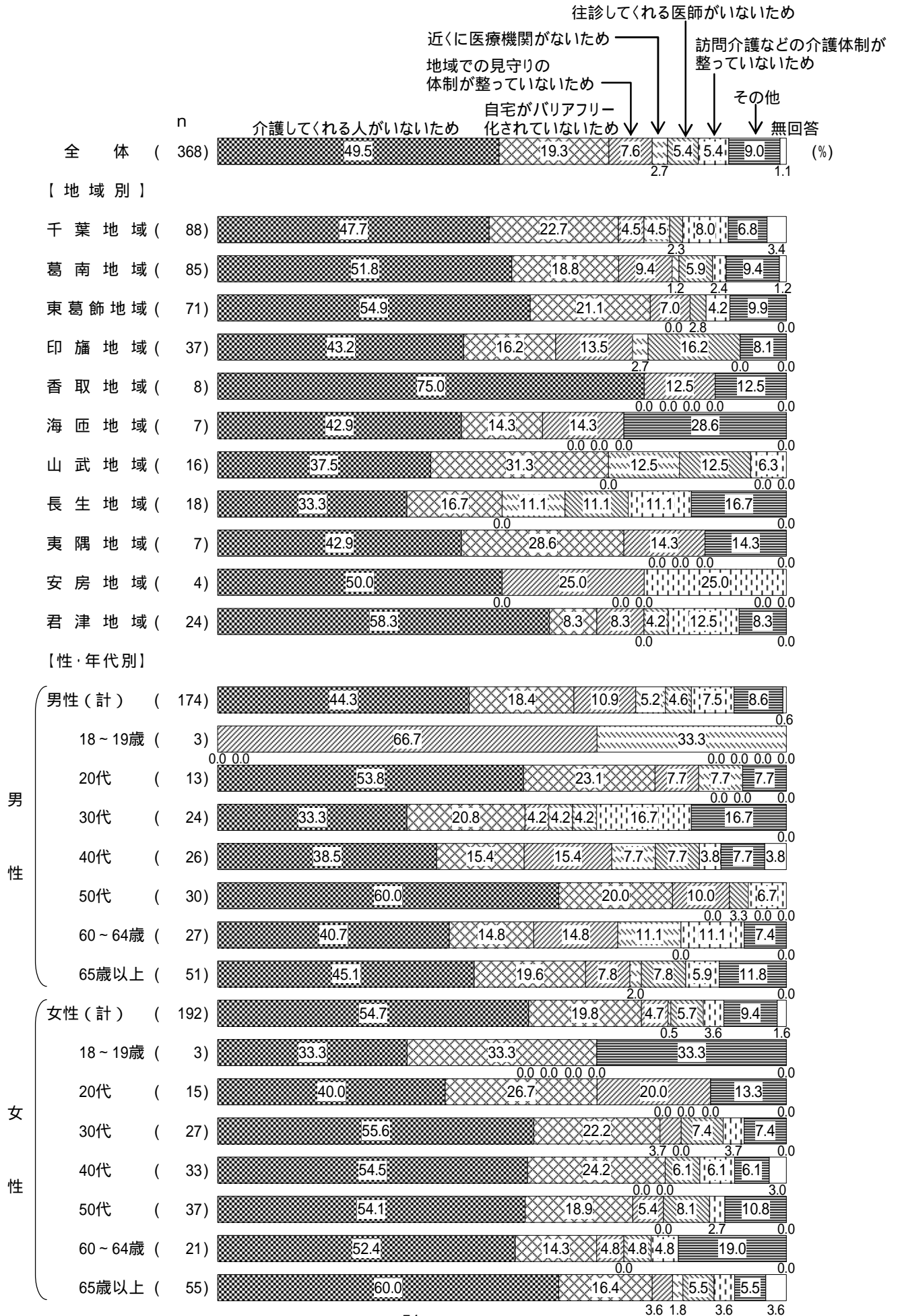
<図表4 - 5> 現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由



介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わないと答えた368人を対象に、その理由を聞いたところ、「介護してくれる人がいないため」(49.5%)が約5割で最も高く、以下、「自宅がバリアフリー化されていないため」(19.3%)、「地域での見守りの体制が整っていないため」(7.6%)が続く。(図表4 - 5)

サンプル数が少ない(有意差がない)ため、【地域別】と【性・年代別】における属性の分析は触れていない。(12ページ「報告書の見方(4)」を参照)

<図表4 - 6> 現在の自宅や地域で暮らし続けられると思わない理由 / 地域別、性・年代別



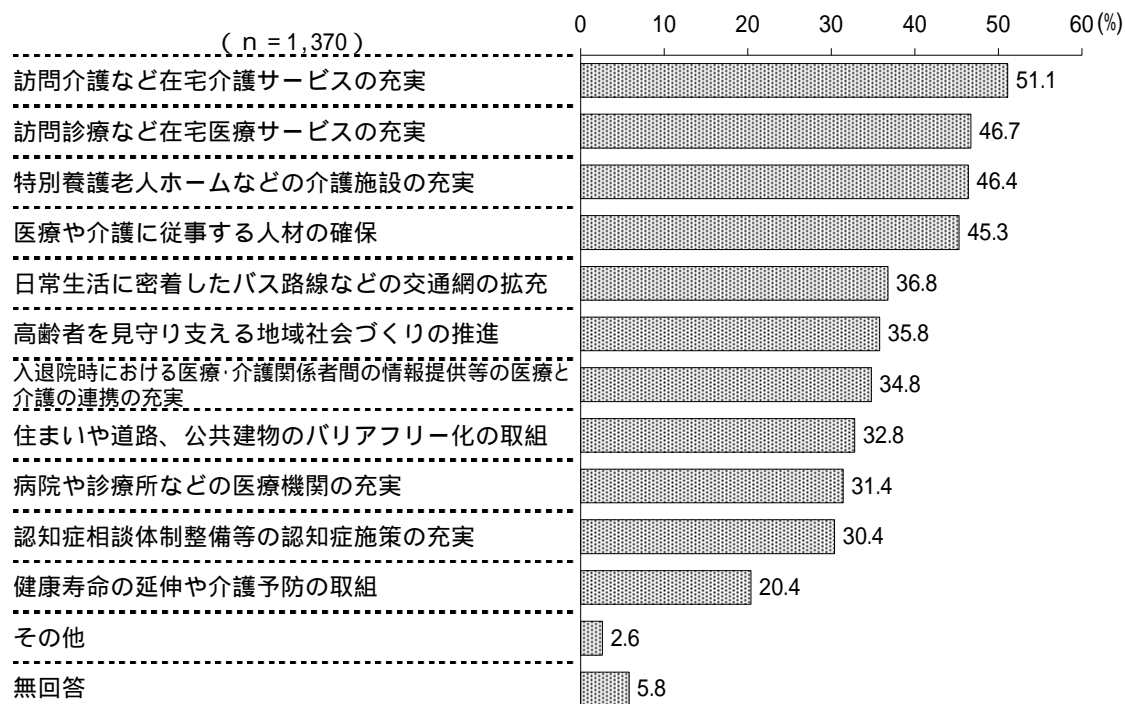
（４）地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること

「訪問介護など在宅介護サービスの充実」が5割を超える

（問16で「暮らし続けられると思う」、「どちらかといえば暮らし続けられると思う」、「どちらともいえない」、「わからない」とお答えの方、問17をお答えの方に）

問18 あなたが、地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めることは何ですか。（はいくつでも）

<図表4-7> 地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること（複数回答）



介護が必要になっても現在の自宅や地域で暮らし続けられると思うと答えた人、「どちらともいえない」あるいは「わからない」と答えた人、および暮らし続けられると思わない理由を回答した1,370人を対象に、地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めることを聞いたところ、「訪問介護など在宅介護サービスの充実」(51.1%)が5割を超えて最も高く、以下、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」(46.7%)、「特別養護老人ホームなどの介護施設の充実」(46.4%)、「医療や介護に従事する人材の確保」(45.3%)が続く。(図表4-7)

【地域別】

地域別にみると、「訪問診療など在宅医療サービスの充実」は“香取地域”(67.9%)が約7割で高くなっている。

「日常生活に密着したバス路線などの交通網の拡充」は“印旛地域”(51.9%)が5割を超えて高くなっている。(図表4-8)

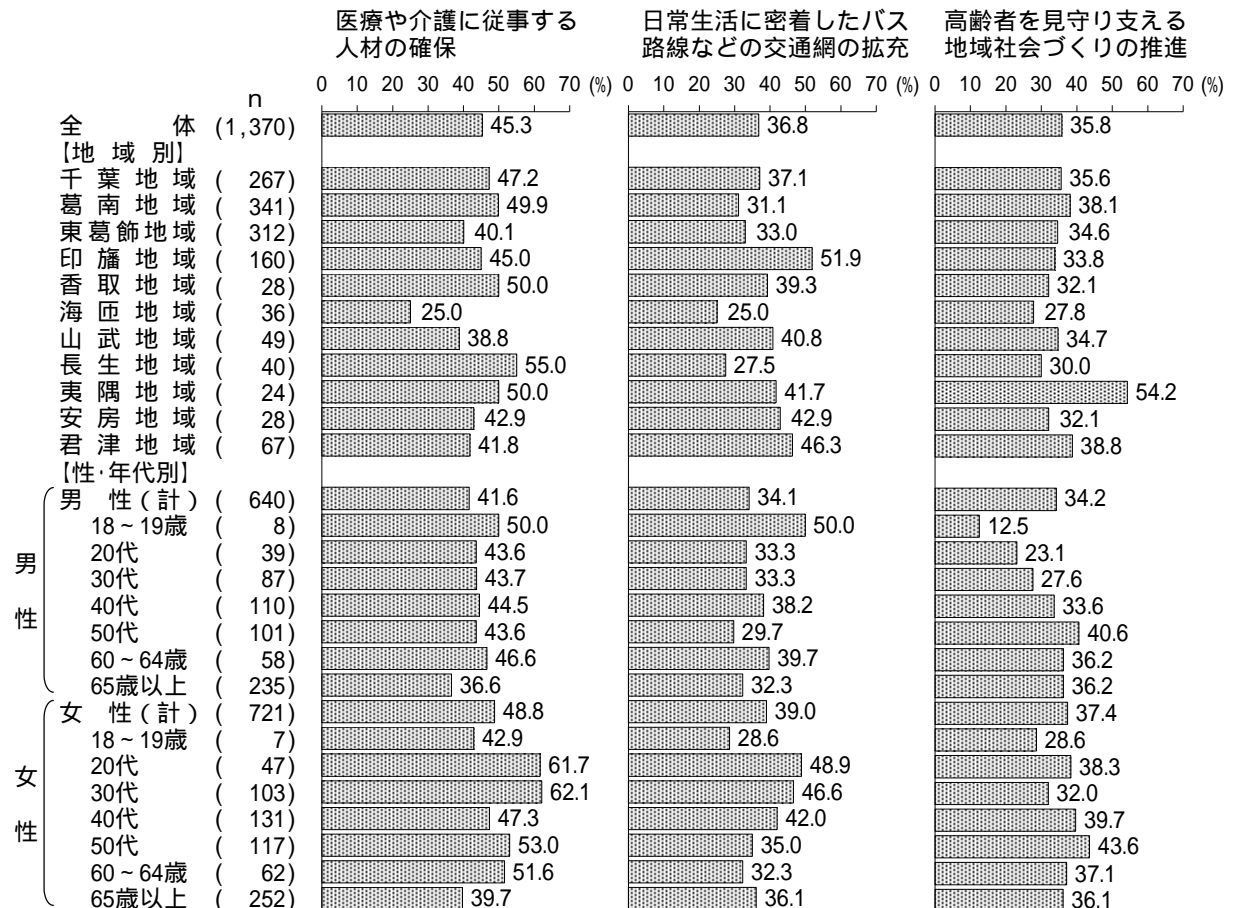
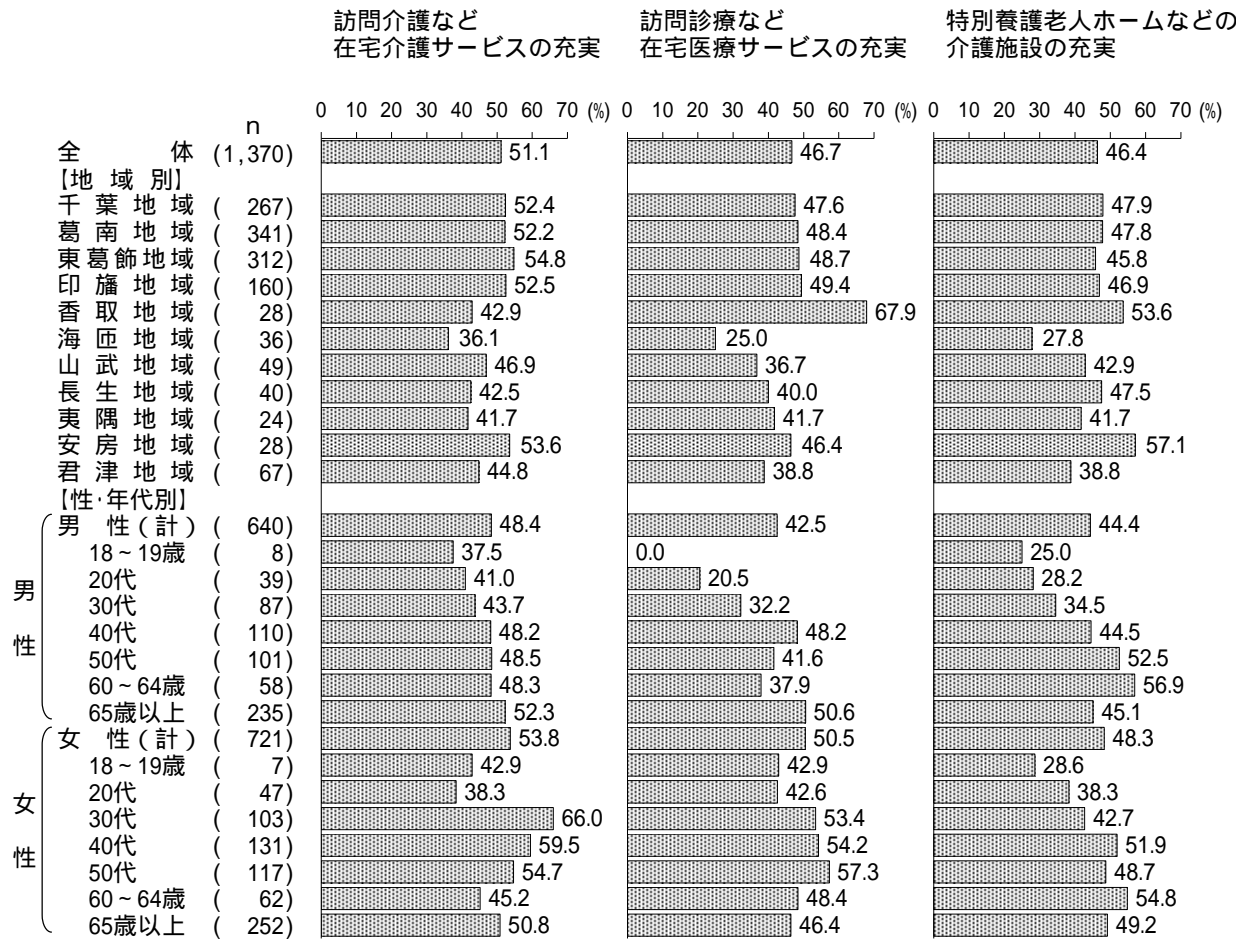
【性・年代別】

性・年代別にみると、「訪問介護など在宅介護サービスの充実」は女性の30代(66.0%)が6割台半ばで高くなっている。

「訪問診療など在宅医療サービスの充実」は女性の50代(57.3%)が約6割で高くなっている。

「医療や介護に従事する人材の確保」は女性の20代(61.7%)、30代(62.1%)が6割を超えて高くなっている。(図表4-8)

<図表4 - 8> 地域で暮らし続けることを希望する高齢者の生活を支えるために、特に県に求めること
（複数回答）/ 地域別、性・年代別（上位6項目）

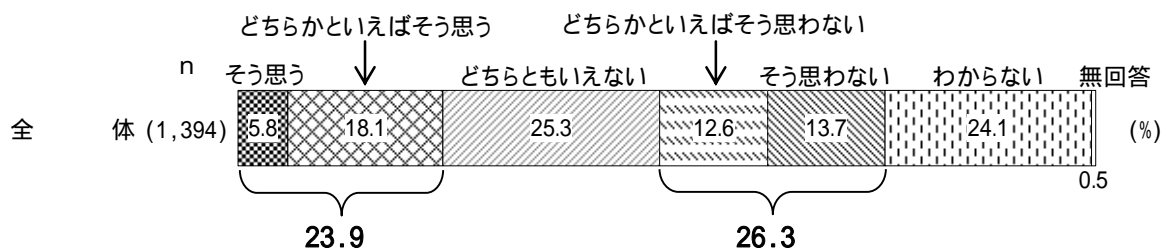


（５）高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか

『そう思う（計）』が2割台半ば

問19 あなたは、千葉県に住む高齢者が年齢にとられず、仕事やボランティア活動への参加など、意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思いますか。（は1つ）

<図表4-9> 高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか



高齢者が意欲や能力に応じて活躍できる生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」（5.8%）と「どちらかといえばそう思う」（18.1%）を合わせた『そう思う（計）』（23.9%）が2割台半ばとなっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（12.6%）と「そう思わない」（13.7%）を合わせた『そう思わない（計）』（26.3%）は2割台半ばとなっている。（図表4-9）

【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“山武地域”（34.0%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表4-10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の50代（30.0%）が3割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は男性の60～64歳（43.1%）が4割を超えて高くなっている。

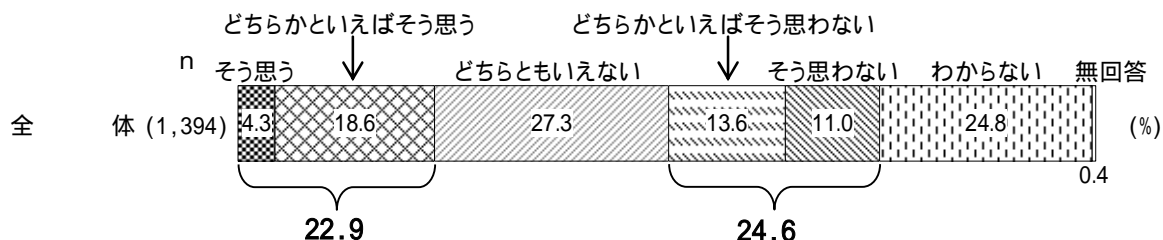
（図表4-10）

（6）高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか

『そう思う（計）』が2割を超える

問20 あなたは、千葉県に住む高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思いますか。（ は1つ）

<図表4 - 11> 高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか



高齢者が多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(4.3%)と「どちらかといえばそう思う」(18.6%)を合わせた『そう思う(計)』(22.9%)が2割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(13.6%)と「そう思わない」(11.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(24.6%)は2割台半ばとなっている。(図表4 - 11)

【地域別】

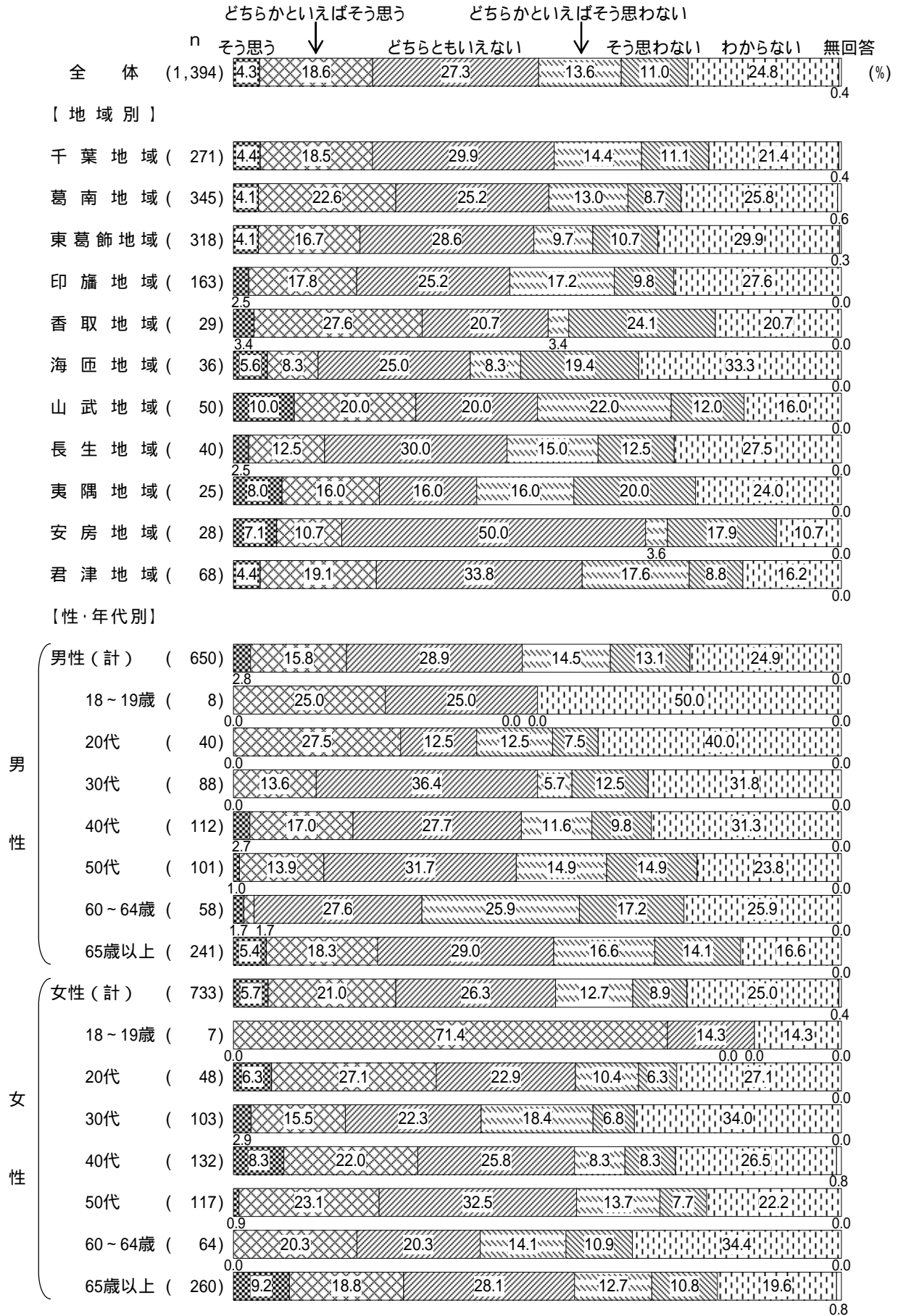
地域別にみると、『そう思わない(計)』は“夷隅地域”(36.0%)、 “山武地域”(34.0%)が3割台半ばで高くなっている。(図表4 - 12)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の20代(33.4%)が3割を超え、女性の40代(30.3%)が3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の60～64歳(43.1%)が4割を超え、男性の65歳以上(30.7%)が3割で高くなっている。(図表4 - 12)

<図表4 - 12> 高齢者が社会と関わりを持ちながら生活を送っていると思うか / 地域別、性・年代別



このほかに、「高齢者が地域で暮らし続けるための施策について」やここまでの質問（問15～問20）について、ご意見やご提案があればご自由にお書きください。

ご意見やご提案を自由に記述していただいたところ、238人から回答が寄せられた。一部抜粋してご意見を記載するものとする。

「高齢者が地域で暮らし続けるための施策」の自由回答（抜粋）

ある程度健康に自信があって、それなりの意欲がある高齢者は結構いるので、それらの人々に地域活動やボランティアに参加したら、ポイントを与えて、いずれ自分が自立できなくなった時にそのポイントを使える様にしたら良いと思う。（女性、65歳以上、千葉地域）

ユニバーサルデザインの環境を増やして欲しい。（男性、20代、千葉地域）

最も必要なことは、健康を維持できるということではないでしょうか。高齢者が介護状態にならないよう、運動や食事などについての予防のためのサービスがなされるとよいと思います。（女性、60～64歳、千葉地域）

昨年から、民生委員の方が発起人となり、近くでふれあい体操教室が始まりました。近いので車に乗れない高齢者も参加でき、市の保健師さんや栄養士さんが来てくれて組体操をしたり、食育の話をしたりお茶会をしたりと、今まであいさつ程度しかしなかった人ともお話ができるようになりました。（女性、65歳以上、安房地域）

公共交通機関が少ない地方の高齢者はどうしても車を運転するしかない。デマンドタクシーなどもあるが、ニーズに答えきれていないと感じる。難しい問題だと思うが、県の取り組みに期待する。（女性、40代、君津地域）

介護等への人材確保はむずかしい。また、若い人が少ないため育てることができない。高齢者との関わりは大変。（男性、65歳以上、安房地域）

ケアマネジャー、相談員や介護職の賃金の向上を求めます。きつい、きたない仕事。賃金があがらなければみんな続けられません。（女性、50代、印旛地域）

地域の卓球の同好会で週2回運動をしているが、他の同好会も盛んです。健康維持への積極的取組みが結果的に医療費等の節減になると考える。（男性、65歳以上、印旛地域）

千葉県生涯大学校で学ばせていただいた1人です。楽しい生きがいを感じ、多数の友人も得ました。多くの県民が学ばれ経験される事を望みます。（女性、65歳以上、東葛飾地域）

元気で前向きな性格の方々は、地域でのさまざまな活動に参加していると思います。そうでない方々も参加してみようかと思えるような活動と声かけに力を入れてみたらと思います。（女性、65歳以上、印旛地域）